

Ⅲ 今年度の研究について

1 研究テーマ設定の理由

昨年度の2月末に、新型コロナウイルス感染症に対応した一斉休業の要請を受け、本校では、3、4、5月の約3か月間、臨時休業を行った。その間、感染症対策を行いながら学校施設の開放を行ったり、学校全体で各家庭のオンライン環境を調査し、必要な家庭には機器の貸し出しを行いながら、インターネット環境を整え、Web

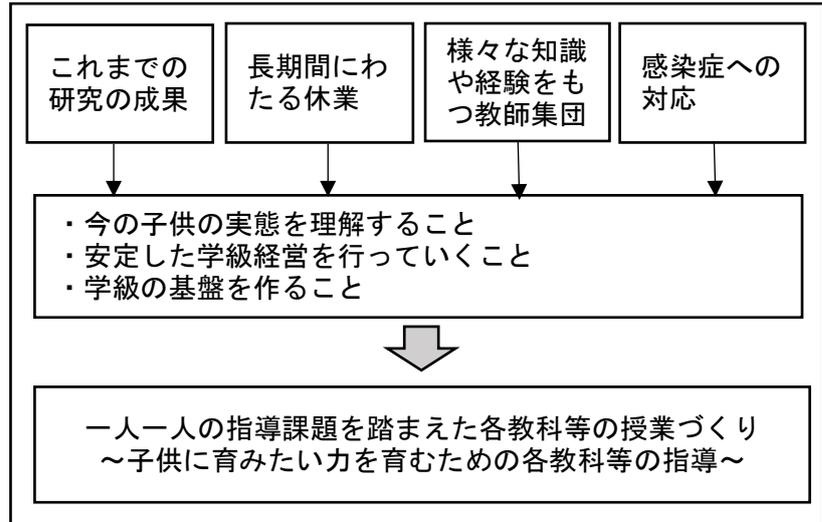


図2 研究テーマ設定の理由

会議システムを活用したオンラインでの学習に取り組んだりした（オンラインでの学習の取組については、P57～84 に記載）。学校が再開した6月に、3か月ぶりに会う幼児児童は、体が大きくなっていたり、平仮名の読み書きができるようになっていたりするなど、年度末に個別の指導計画に記入されていた実態から大きく成長し、変化していることが分かった。加えて、この新型コロナウイルス感染症については、収束する気配がなく、学校では、感染症対策をしながら制限のある中での教育活動を試行錯誤しながら行っていくことになった。

また、今年度、本校の約3分の1の教師が、他県からの人事交流や他業種から異動してきて初めて特別支援学校で働く、初めて教師の仕事に携わるなど、様々な知識や経験をもつ教師集団であった。本校では、1学級に対して3名の教師が配属されるが、どの学級にも今年度着任した教師がいる構成となっていた。

これらのことから、今まで積み上げてきた研究成果にさらに新たなことを積み上げていくのではなく、まずは、今の多種多様な経験をもつ教師集団で、私たちが関わることでできなかった約3か月で大きく変化した今の幼児児童の実態を理解することが必要であると考えた。併せて、幼児児童の実態を理解するといっても、様々な背景をもつ教師集団であることや、今年度は感染症対策で他学年との交流が制限された環境での教育活動であることなどの理由から、例年以上に学級の基盤作りが幼児児童にとっても、教師にとっても重要になってくると考えた。

そこで今年度は、学級という基盤を作りながら、幼児児童一人一人の発達の状況や障害の状態など、実態を的確に理解し、指導課題を明らかにした上で、日々の実践を行うこと、各学級で幼児児童の実態を踏まえて、何を大事にして授業づくりをしたいのかを決め、授業づくりを進め、幼児児童の変容を基に、指導で何が大切であったのかを明らかにしたいと考え、今年度の研究テーマを「一人一人の課題を踏まえた各教科等の授業づくり～子供に育みたい力を育むための各教科等の指導～」とした。

2 研究の目的

- (1) 幼児児童の学習上・生活上の困難さから指導課題を導き出し、幼児児童の実態を捉えた授業づくりをする。
- (2) 各教科等の授業において幼児児童の変容から、目標設定や指導計画、指導内容や指導方法などにおいて効果的であった指導についてまとめる。

3 研究の方法

研究の目的（１），（２）を達成するために，それぞれ以下のように取り組むことにした。

- （１）幼児児童一人一人の指導課題を導き出すために，学級担任全員で自立活動の「流れ図」を活用しながら，幼児児童の学習上・生活上の困難さを明らかにし，その理由や原因を探り，整理しながら指導課題を明らかにする。
- （２）各学級が幼児児童の実態を把握し，指導課題を導き出した上で，幼児児童にどんな力を育てたいか，何を大切にして授業づくりを行うかを考えて研究テーマや指導の場を設定し，授業実践を行う。また，その授業実践を行いながら，幼児児童の評価を基に，目標設定や指導計画，指導内容や指導方法などにおいて効果的であった指導について整理する。